2023 年 10 月 17 日作成　Ver.1

≪情報公開文書≫

外来経口抗菌薬の使用量と培養検査における抗菌薬感受性の変化に関する実態調査

研究の概要

【背景】

近年、抗菌薬が効かない薬剤耐性（AMR）を持つ細菌が世界中で増加しています。AMR が拡大した原因の 1 つとして、抗菌薬の不適切な使用が挙げられます。AMR 対策アクションプラン（2016-2020）において、2020 年の一日抗菌薬使用量を 2013 年の水準の 3 分の 2 に減少させること、経口セファロスポリン系薬、フルオロキノロン系薬、マクロライド系薬の人口千人あたりの一日使用量を 2013 年の水準から 50%削減する等の成果目標が示されています。

また、日本で使用される抗菌薬のうち約 90%が外来で処方される経口抗菌薬と報告されています。しかしながら、外来における経口抗菌薬の使用状況を施設単位で把握する試みは十分になされていません。また、外来患者さんに対する経口抗菌薬の使用量と培養検査の結果との関係について調査した報告も十分ではありません。

【目的】

外来患者さん対する経口抗菌薬の使用量について調査し、AMR 対策アクションプランの成果目標の達成度を含めた使用状況を明らかにします。また、外来における経口抗菌薬の使用量の推移と培養検査の結果について調査し、その関係について明らかにします。

【意義】

長崎大学病院では抗菌薬適正使用支援チーム（AST）が抗菌薬使用について介入を行っています。本研究の結果が明らかとなり、適切な介入を進めていくことで外来患者さんに対する経口抗菌薬の適正使用につながり、AMR 対策となることが期待できます。

【方法】

本研究では外来患者さんに対する経口抗菌薬の使用量について電子カルテより抽出を行い、経口抗菌薬の使用量の 1 年ごとの推移について調査します。AMR 対策アクションプラン（2016-2020）の成果目標を達成しているか評価します。また、外来患者さんにおける培養検査について電子カルテより抽出を行い、薬剤感受性の変化について調査します。さらに、得られた経口抗菌薬の使用量の推移と、薬剤感受性の変化について関連があるか比較検討します。

対象となる患者さん

2013 年 1 月 1 日～2022 年 12 月 31 日の間に長崎大学病院の外来で経口抗菌薬を処方された患者さん。

研究に用いる情報

●研究に用いる情報

この研究は、当院の電子カルテから以下の情報を収集して行います。

・患者背景：性別、年齢
・経口抗菌薬：薬剤名、使用量（処方件数、処方日数、投与量）
・培養検査：細菌名、薬剤感受性

本研究で利用する情報について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

研究実施期間

研究機関長の許可日～2024 年 12 月 31 日

研究実施体制

研究責任者	所属：長崎大学病院　薬剤部 氏名：赤松　隼人 住所：長崎県　長崎市　坂本 1－7－1 電話：095（819）7248
情報の管理責任者	長崎大学病院　病院長

問い合わせ先

【研究の内容、情報等の利用停止の申し出について】

長崎大学病院　薬剤部　赤松　隼人
〒852－8501　長崎市坂本 1 丁目 7 番 1 号
電話：095（819）7248　　FAX　095（819）7251

【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）

苦情相談窓口：医療相談室　095（819）7200
受付時間　　：月～金　8：30～17：00（祝・祭日を除く）